

令和7年度 狭山市環境審議会 会議録

開催日時 令和8年1月28日(水) 午前10時00分～午後0時00分
開催場所 狭山市役所 7階 職員研修室
出席者 松島委員、大貫委員、安藤委員、井上委員、小久保委員、澤田委員、中津川委員
小島委員、奥富委員、長谷川委員、吉野委員、下田委員、北田委員
(欠席者 2名)
狭山市 小谷野市長、久保田環境経済部長、武井環境経済部次長兼環境課長
(事務局) 篠原主幹、戸口主幹、諸口主査、三塚主事
傍聴者 なし

会議の経過

1 開会

2 委嘱状の交付

3 あいさつ

4 環境審議会委員及び事務局職員の紹介

5 会長及び副会長の選出

会長に大貫委員、副会長に北田委員を選出

6 議事

(1) 2025年度版(2024年度実績)狭山市環境レポートについて

(2) 第3次狭山市環境基本計画の見直しについて

議事(1)、(2)について、配布した資料に基づき事務局より説明した。

<質疑応答・意見>

委員 環境レポートの全公共施設の事務・事業の実施に伴う温室効果ガス排出量の経年変化について、目標年度2030年度の目標達成に向けての見通しは。

事務局 現状、基準年度比ではガスや電気等のエネルギー使用量は減少しているが、CO2排出量は増えているという状態になっている。今後は環境配慮電力など排出係数の低い電力の導入に向け、契約のあり方から見直しを進めていきたい。また、ガスについてはカーボンオフセット都市ガスの一部導入を進めており、2030年の目標達成に向けて、現状値との乖離を埋められるよう模索している。

委員 経年変化のグラフについて奇数年は削減、偶数年が増えていることの要因は。

事務局 新型コロナの影響による事業実施への影響や市民の生活様式の変化、年度の気候、CO2の排出係数の変動などが要因として想定される。

委員 排出量の経年変化のグラフがあると、よりわかりやすくなるのでは。

委員 環境レポートの部局別の温室効果ガス排出量について、ボトルtoボトルによって、

焼却するプラスチック量は減ったか。

- 事務局 ペットボトルリサイクルのボトル to ボトルは、焼却による排出量には影響しない。
- 委員 公共施設の照明等の一括 LED 化により、CO2 削減の見込みはどれほどか。
- 事務局 毎年、1,100 t 削減の見込み。
- 委員 自治会館も今年度 LED 化を実施する。昨年 12 月頃に班長会で予算の了承を得て電気屋へ連絡したが、納期遅延により機材がないため 2 か月待ちの状況。今年度中には終了予定。
- 委員 東京都で取り組まれている個別回収やごみ袋の有料化は、ごみの減量や市民意識の向上に効果があると聞いている。ごみの減量により焼却炉の維持管理に関するメリットや予算の削減も見込まれるが、個別回収に関する市の見解は。
- 事務局 今後、有料化を視野に検討が進められると想定しているが、狭山市ではまだその議論はしていない状況。市民に対し多くの負担を強いる施策となるため、導入にあたっては広く市民の皆様のご意見を伺い、何年かかけて説明しご理解いただきながら進めていくことになることが想定される。また、個別回収については、ごみ袋の有料化実施後の施策となる。
- 委員 なんでもサービスで税金を使えばいいという考えではなく、限られた予算の中での市政運営のため自己負担という意識が変わっていくよう、一歩先を見据えた施策を検討してほしい。
- 委員 10 年の計画だが、なぜ 5 年で見直すのか。
- 事務局 国は第 6 次環境基本計画を閣議決定するなど、環境をめぐる社会経済情勢は日々変化していることを踏まえ、10 年計画の中間である 5 年目に見直しを行い、現状に即した内容に修正するもの。
- 委員 自治会内で資源ごみの個別回収に取り組んでおり、2 年ほどが経過するが特に問題は起きていない。メリットとしては、分別されていないものは回収されないことにより、分別への意識の向上が挙げられる。会員が楽しく続けられるよう、自治会だよりに回収量を掲載している。また、自治会連合会で情報を共有し、いくつかの自治会も導入を検討している。
- 委員 ごみの減量は焼却処理量を削減でき、埋立地の問題や、資源や CO2、環境負荷を減らすなど、全部に繋がっている。環境に学んで経験し、改善に向けて行動する、それが環境市民だと考えるが、学んだことを環境講座として伝えるだけでなく、できることを一緒に考える活動に仲間と取り組んでいる。また、生ごみが資源化できないかと模索している。
- 委員 教室に飲みかけのペットボトルがあったり、机の下にごみが落ちていたり、ごみを拾って捨てるということに気づいて行動できる学生が少ないと感じている。今の学生はコロナ禍で人との接触や、外での活動を制限された時代を過ごしてきているため、環境というテーマで人と話したり、外に目を向けたりするような機会を

創りたいと思う。

- 委員 環境計測機器のメーカーとして環境配慮についての社員教育に取り組んでいる。弊社で使用する電気はグリーン電力を購入しているが、Scope 1 や 2 で排出される CO2 をどのように解消するか、環境に配慮するということはどうしてもお金がかかるということを日々痛感しており、その費用をどのように捻出するかというところ。市として CO2 排出量削減のためグリーン電力の導入や、ソーラーパネルの設置など、導入の可能性について検討してはいかがか。
- 委員 一人一人が取り組める温暖化対策として、住環境の断熱がある。夏や冬は多くのエネルギーを使用するが、カーテン等の窓辺の小さな工夫でエアコンやストーブの使用を減らすことができ、とても快適に過ごせるようになった。高校生自ら自分の学校を断熱し、熱すぎる寒すぎる学校の環境を変えることができたという例もある。そのような取り組みを後押しする施策を市に検討いただきたい。
- 委員 工業団地としても環境に積極的に取り組んでいきたいということで、新狭山から南大塚の線路沿いに芝桜を植える活動をしている。実施日や取り組みの取扱いに課題があり一筋縄ではいかないところもあるが、工業会として多く方が参加できるよう工夫しながら取り組んでいく。通る際は見ていただけると嬉しい。
- 委員 暑さ寒さを我慢することは難しいため、エネルギーを正しく効率よく使うことが大切。カーボンニュートラルは 2030 年や 2050 年という長いスパンの目標のため、今の子供たち、未就学児や小中学生が大人になるころに向け、SDG s の授業や環境教育など、そういった機会を作っていきたい。弊社として初めて狭山市で実施した未就学児向け SDG s 授業は好評であり、他の自治体へ P R している。
- 委員 資源ごみを正しく分別することはもちろん、生ごみがコストではなく資源になるような取り組みでお役に立てるよう模索したい。
- 委員 環境の問題や SDG s もそうだが、第一段階として興味のない人をどのように取り込むか、ということがスタートになる。興味がなかった方に質問された際に答えられるよう自己研鑽をしておくというのはいかがか。
- 委員 さや環の YouTube を、エコフェスタを機に充実させ、様々な方に向けて発信していきたい。断熱は国の環境基本計画の目標である生活の質の向上につながるため、今後、市としても取り組みを検討してほしい。
- 委員 まずは身近にできることとして、事業所内や会員に向けてごみの分別徹底を引き続き進めたい。
- 委員 埼玉県では県政出前講座を実施しており、実績としては、小学校の先生からの依頼で、川の水質等の授業を実施した。他に大気汚染や土壌汚染等の講座等もあるので、ぜひご活用いただきたい。

(3) その他

次回の狭山市環境審議会の開催時期について、事務局より説明した。

7 閉会

会議資料（配布資料）

- ・ 狭山市環境審議会委員名簿
- ・ 環境経済部職員名簿
- ・ 狭山市環境基本条例
- ・ 狭山市環境審議会規則
- ・ 第3次狭山市環境基本計画概要版
- ・ 第3次狭山市環境基本計画等見直し方針